



## 九州大学が JICA と提携して国際的な地熱開発人材育成を目指す研修コースを開講

九州大学大学院工学研究院は地球資源システム工学部門の糸井龍一教授を中心に、2016年6月20日(月)から約半年間、JICA九州と連携して研修コース「地熱資源エンジニア」を実施します。

再生可能エネルギーの一つである地熱資源は主に発電を目的として、世界の24カ国で開発利用が進められています。天然の蒸気を利用する地熱発電はCO<sub>2</sub>放出量が少ないため地球環境にやさしく、自国のエネルギー資源を有効利用できるため、経済的なメリットも大きく、さらに多くの国々での開発が進められています。しかし、開発を進めるために必要な人材が世界的に不足しており、特に途上国においては人材育成が喫緊の課題となっています。

本コースでは地熱開発に必要な基礎知識を学び、専門分野の技術を習得し、地熱資源開発を担う中核人材を育成することを目的としています。研修員は各国で地熱資源開発を担う機関の技術者で、3カ月の講義の後、それぞれの専門分野に分かれて実習を行います。研修終了時には学内にて研究成果の発表も行います。

つきましては、本コースを開始するにあたり下記日程で開講式を行います。

### <地熱資源エンジニアコース 開講式>

日時： 6月20日(月) 16:30-17:00

場所： 九州大学工学府第一会議室 (福岡市西区元岡 744 ウエスト4号館 420号室)

### コースリーダーからひとこと：

九州は地熱資源の開発利用の長い歴史を有し、発電から直接熱利用まで様々な活用しています。本コースにて、日本を代表する地熱の各分野の講師による講義と共にこれらの豊富な実例を目で見て体験し、世界の地熱開発に貢献できる人材となることを期待します。



大岳地熱発電所



糸井 龍一 教授

### <地熱資源エンジニアコース>

九州大学では1970年～2001年まで36カ国約400名の研修員をJICA地熱研修コースで受入れてきました。このコースを刷新し、本コースを再始動します。

■今年度研修参加国： 9カ国 16名

ボリビア、ジブチ、エクアドル、インドネシア、ケニア、ニカラグア、パプアニューギニア、ルワンダ、タンザニア

■実施期間：2016年6月20日(月)～2016年12月16日(金)